

「上を向いて歩こう！」

～うつむいてしまう私たちへの主の励ましのお言葉～

「あなたかたはどんなことがあっても、心を騒がせてはなりません。神を信じ、また、わたしを信じることです。」 「わたしがこれらのことをあなたかたに話したのは、あなたかたが心に平安を持つためです。確かに、あなたかたはこの世にあっては悩みがあります。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでにこの世に勝ったのです。」 ヨハネによる福音書14章1節・16章33節 [現代訳]

今回の台風は東日本全体に大きな被害をもたらしました。東京も例外ではありませんでした。長野市の被害に遭われたある地域は、元々洪水の被害に何度も遭って来たとのことでした。そのような経緯があるために、想像を絶するような大きな被害であったにも関わらず、住民の方々の意識が非常に高かったため、犠牲になられた方々が少なく済んだとのことでした。そのニュースを聞いて逆にビックリさせられました。自分たちは大丈夫と高をくくっていると大きく足をすくわれてしまうことがあります。あの地域の方々は自然の恐ろしさを普段から意識して生活されていたのだということです。

私たちの人生には今回のことのように、想像をはるかに超えるような事態に出くわすことがあります。どんなに安全を意識して、十分な備えができていたとしても、それらをすべてひっくり返されるような出来事が起こるのだと今回の台風は教えてくれたように思います。

そんな、自分では絶対にどうすることもできないような状況に出くわしたとしても、完全な平安をいただいくにはどうしたらよいのでしょうか？

今朝の聖書箇所はヨハネ11章「ラザロのよみがえり」の有名な箇所です。完全に死んだはずの人間がよみがえった。ということとはんでもない奇蹟です。イエス様はマルタに「もし信じるなら神の栄光を見るであろう」とおっしゃいました。では何が一体「神の栄光」なのでしょう？ラザロが死からよみがえったことでしょうか？12章に「人の子が栄光を受ける時がきた。よくよくあなたがたに言うておく。一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはただ一粒のままである。しかし、もし死んだなら、豊かに実を結ぶようになる。自分の命を愛する者はそれを失い、この世で自分の命を憎む者は、それを保って永遠の命に至るであろう。」そして、このイエス様の言葉に父なる神様がお答えになりました。「わたしはすでに栄光をあらわした。そして、更にそれをあらわすであろう」と。イエス様が父なる神様の御力を持ってあらわされた栄光は、この世の死すべき脆弱な命を捨てて、天からの永遠に尽きることのない無限、無敵な命の世界を開くという栄光であったと言えます。ラザロに対するデモンストレーションはただのモデルに過ぎません。イエス様のお伝えしたかったことは、主を信じる者には無限、無敵な命の世界が開かれるのだということだったのではないのでしょうか。